

2016年11月19日

シジュウカラの音声研究 10 年間の軌跡

鈴木俊貴

(京都大学・生態学研究センター／機関研究員)

講演の概要

動物たちに「言語」はあるのでしょうか？また、「単語」や「文法」といったヒトの言語の特徴は、どのように進化したのでしょうか？

私はこれらの疑問を解明することを目標に、東邦大学在学時の 2005 年（卒業研究）から現在まで、鳥類の音声コミュニケーションに関する行動学的研究を続けてきました。その結果、私たちに身近な存在であるシジュウカラという小鳥が、「単語」や「文法」といった言語能力を用いて、群れの仲間や巣箱のなかのヒナたちに、様々な情報を伝えていることを発見しました。さらに、これらの情報伝達は、シジュウカラが自然界をうまく生き残り、子孫を残していく上で大きく役立っていることもわかってきました。これらの発見は、「言語をもつのはヒトだけである」とするダーウィン以来 140 年以上にわたって信じられてきた科学的憶測に挑戦しうる成果であり、言語進化を解き明かす上でも大きな鍵を握っているといえそうです。

本講演では、東邦大学在学時から続けてきたシジュウカラの音声研究の概要についてお話ししたいと思います。